

## 第6回 安全・安心推進会議 会議要旨

1 日 時 平成31年2月13日(水) 14:00~16:00

2 場 所 西日本総合展示場3階 311・312会議室

3 出席委員数 26名

### 4 議題

- (1) 北九州市安全・安心条例行動計画の進捗状況について
- (2) 第2次北九州市安全・安心条例行動計画の方向性について
- (3) その他

### 5 主な意見

【方向性Ⅰ 安全・安心に関する市民意識の高いまちづくりの推進】

#### 安全・安心に関する意識の高揚

＜不審者への対応策について＞

##### 委員

犯罪者は、外見では分からない。監視性と領域性の低い場所は、危険な場所という、犯罪機会論の考え方に基づいた、人ではなく、場所に対する意識を持つことが必要。

##### 委員

関係機関と連携した防犯教室等を実施している。また、「ふっけい安心メール」や近隣の学校からの不審者情報があった場合、教育委員会から近隣校などにメールで流せるようにしている。

##### 委員

児童の防犯力は高くないため、それらを補う地域の皆さんの防犯力が必要不可欠。

#### 安全・安心なまちづくりの新たな担い手の育成

＜人の目を増やすための取組の提案について＞

##### 委員

「窓から見守り」は非常に大事で、それを遮っているような植栽、ポスター、家具、ブラインド、こういったものを取り払って、外から中が見える、中から外が見えるというまちづくりを進めていくことが大事。

##### 委員

「ながら見守り」でこれから大事になってくるのが、ドライブレコーダーである。自家用車・営業車に「ドライブレコーダー見守り隊」などのステッカーを貼り、「みまもっち」で案件が出たときに、それを見て何日何時にそこを通った事業者や市民がドライブレコーダーのデータを提供する動きが出てきたらよい。

議長

今後、カメラが付いている様々な公共交通との連携が必要。

## 【方向性Ⅱ 安全・安心な環境の構築】

### 地域活動の推進

<地域のつながりと防犯について>

委員

地域では、高齢者が日中の見守り、若い方々が夜のパトロールに入るといったお互いができることをつなげることで、互いに地域というものを考え、つながりを大事にしている。

### 安全・安心に配慮した環境の構築

<空き家・空き室のアジト化防止について>

委員

空き家・空き室は、テロのアジト化になるおそれがあると言われており、行政としても、空き家・空き室の把握は必要ではないか。

委員

平成26年に空き家の実態調査を行った。その後新たに見つかった空き家の情報も把握している。平成28年に行われた「G7北九州エネルギー会議」の際に、テロ対策として小倉北警察署と空き家に関する情報交換を行っており、現在、県警察と空き家の対応方法や情報提供の仕方等を協議し、3月末頃を目途に協定の締結を考えている。

<ブロック塀の積み上げの対策について>

委員

ブロック塀は、視認性を低下させるとともに、地震が起こった際には凶器になりうるため、ブロック塀を撤去することは、防犯及び防災・まちづくりの面からも大変効果がある。

委員

民間のブロック塀のうち、「危険である」と判定した1,631箇所について、直接、現地調査、文書指導を実施しており、「注意を要する」としたものについて、来年度から調査を行い、同様の措置を行う予定。また、昨年10月からブロック塀撤去に係る費用を一部補助する制度を開始した。学校以外のブロック塀について、今年度既に撤去、もしくは改修に着手しており、来年度末までに完了する予定である。その他のものについても、危険なものは既に撤去している。

委員

学校敷地内のブロック塀について、緊急度の高いものは全て撤去した。現在、文部科学省の補助制度を利用して、専門正規職員によるブロック塀の安全点検を実施しながら、対策が必要とされるブロック塀について撤去等を進めているところ。

## 【方向性Ⅲ 安全・安心に関する相談及び支援体制等の充実】

### 非行等からの立ち直り支援の推進

＜協力雇用主について＞

委員

罪を犯した人の約7割が、1年以内に罪を犯して刑務所や少年院に入るときに職を持っていない。職を持っている人と持っていない人の再犯率は、3倍違うと言われており、いかに仕事が大事かということがわかる。そのため、北九州市、保護観察所、ガーディアン・エンジェルズ、警察の少年サポートセンター等、垣根を越えた横の連携が必要であり、就職支援といった具体策を掘り下げていくべきである。

議長

未然に起こさないようにするということがとても重要であるが、起こした後、罪を犯した人たちがまた起こさないように仕事や住宅などの支援をしていくことも、全体として重要。

## 【その他】

＜未成年者の飲酒について＞

委員

未成年者の飲酒による街頭でのトラブルが多い。その要因として、未成年でも飲酒が可能な飲食店の増加や懇意にしている客引きによる飲酒可能な飲食店への誘導が挙げられる。

事務局

北九州市では、小倉北警察署、町内会や商店街と何度も協議を重ね、対策協議会においてローカルルールを作った。また月に1回、小倉北警察署、地域の方々と合同で見守り活動やパトロールも行っている。

＜にぎわいづくりと防犯について＞

委員

魚町商店街の経済特区制度で、客が通り道にいと、その通りで声を掛けにくい、キャッチしにくいということが、実は防犯につながっている。にぎわいづくりやコミュニティづくりを連動させてまちを活性化していくことが安全につながるという北九州モデルを発信してはどうか。

議長

地方創生ということも含めて、にぎわいづくり、あるいは若者が住み続けられるようなまちということをしていく。